

石巻日日新聞

石巻日日新聞社
〒986-0874
石巻市双葉町8番17号
電話 0225-95-5231
ファックス 0225-94-4720
郵便振替口座 02240-3-4424

©石巻日日新聞社 2025

Hibi-net
https://www.hibishinbun.com

ビル・リニューアルメンテ

同和興業

石巻市中里三丁目6番12号
TEL(96)6279
FAX(94)3679

県東部 5日の天気



晴れ。北西の風。波1メートル。

夜の最低		4℃		日中の最高		15℃	
降水確率	0-6時	0-12時	12-18時	18-24時			
	0%	0%	0%	0%			
仙台							
6(木)		7(金)		8(土)			
曇時々晴		晴時々曇		晴時々曇			
8/18		8/17		6/14			

仙台管区気象台 4日午前11時発表

明日のこよみ

仙台		※カッコ内は潮位(cm)	
満潮	3:26(138)	14:29(147)	
干潮	8:50(76)	21:26(-2)	
(提供・仙台管区気象台)			
石巻			
日出	6:05	日入	16:31
月出	15:59	月入	5:23
(提供・国立天文台)			

終活知って人生前向きに

自分らしい人生の締めくくりに向け、前向きな生き方を考える終活セミナー「これから的人生 自分らしくデザイン」が1日、石巻市かわまち交流センターで初めて開かれた。終活を行う上の心構えや留意点について住職と行政書士がそれぞれ講話を行ったほか、葬儀社や石材店、遺品整理、生前整理など各分野の事業者や専門家がブースを構え、個別相談に対応。約50人の参加者たちは最期を見据えながら、よりよい「今」を生きていくための方法を模索していた。

備えの重要性学ぶ

一般社団法人てあわせ(後藤泰彦理事長)主催。石巻日日新聞社と石巻観光協会が共催した。専門家による座学と個別相談を通して、終活の進め方や準備などの知識を蓄え、疑問や不安を解消できる場にしてもらおうと初開催した。

桂子さん(同市桃生町)がそれぞれ講話した。後藤さんは「終活は最期への備えであり、自身の安心感や気持ちの落ち着きになる」と前置き。墓じまいや葬儀を考える際の注意点として「子どもに迷惑をかけたくない」との理由から自分一人の話し合いだけで大事な決定をする人が多い

が、後々トラブルにつながったり、後悔することもある。終活は「集活」。きょうだいや親族らも交えて相談し、いろんな方法を模索してほしい」と伝えた。葬儀社を選ぶ際は「インターネットの情報

報をうのみにしたり、安さだけで考えるのは失敗のもと」と後藤さん。「こうしたセミナーなどで葬儀社や石材店に相談するなど必要な情報を仕入れた上で考えてほしい」と語った。伊藤さんは行政書士の視点で「今やらないといけないこと」を主題に語り、「物、金、事柄」の3つを整理する重要性を説いた。特に金銭面では「通帳は解約などが面倒な場合が多いので3つ以下に減らして。金もあまり残そうとせず、ぜひ今の自分のために使ってほしい。ストレスをためないことが、よりよく生きるための秘訣」

とアドバイスした。また相続手順や成年後見制度の基本についても説明。相続争い防止の方法として公正証書を用いた遺言を勧めた。「エンディングノートなどに書いた自筆遺言はそれだけでは公的効力はない。公正証書は家庭裁判所の検認が不要な上、気持ちが変わった時に何度でも書き直せる。また公証役場書庫に無料保管もできる」と利点を述べた。講話後は各分野の事業者が8つのブースを設け、個別相談会を実施。参加者は「終活は何から始めるべきか」「葬儀や墓じまいの費用は」「樹木葬とはどんなものか」などさまざまな疑問を投げかけた。

石巻市山下町の女性(77)は「母が亡くなった時、着物の処分など遺品整理に苦労した。娘たちに負担をかけたくなかったので、講話を参考にまずは物を整理することから始めた」と話した。同市内の女性(60)は「同年代の参加者が比較的多く、終活を考えているのが自分だけじゃない」と思えて前向きになった。特に墓じまいは費用や撤去までの流れなどを知ることができたので、今後、菩提寺や親族との話し合いの場で生かしていきたい」と話していた。

【山口紘史】

講話と個別相談で不安解消

一社てあわせ主催 第1回セミナー



「今をよりよく生きるため」の終活の極意を学んだ

前半はてあわせ理事長で観音寺(石巻市皿貝)住職の後藤泰彦さん、行政書士の伊藤

手作り豚汁に「おかわり！」

石巻カトリック幼稚園 6年ぶり園内調理復活

小野楓佳ちゃん(6)は「ジャガイモとニンジン切るのを頑張った。自分で切った野菜だからおいしい